

公表 事業所における自己評価表（ポラーノ広場 2025年1月実施）

公表日 2025年2月11日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか。	○		十分な広さとは言えないが、限られたスペース内に間仕切りをして、視覚を遮る工夫をしてコーナーを作り、戸外遊びを取り入れたり、グループに分かれて活動したり、過ごしやすさを考えている	
	2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		制度に則り、適切な人員を配置している	
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		生活空間は、活動の用途に分かれ、視覚でもわかりやすいような掲示の工夫はしている。和室の段差は少し高いと思われるが、他はバリアフリーに配慮している。 トイレには多目的シートを設置している	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境」になっているか。また、子どもたちの活動に合わせた空間となっているか。	○		掃除は、毎日出来ており清潔である。子どもたちの活動の用途に合わせた空間となっている	
	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を、使用することが認められる環境になっているか。	○		子どもの必要に応じて、使用できる環境になっている	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定とふり返り）に、広く職員が参画しているか。	○		毎月1回の事業所会議や、必要な時にはミニミーティングを開き、事業計画の行動目標に沿って職員全体で業務を振り返り、課題を整理している	
	7 保護者等向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎年実施し、業務改善につなげている。年度末には事業所通信で保護者へフィードバックしている	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎月の会議で、意見を出し合い、改善策を検討し業務改善を行っている	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		第三者による外部評価は行っていない	隔月に1回、外部作業療法士のスーパービジョンを受け、事業内容や個別事例についても助言をもらっている
10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		毎月1回の法人職員研修、事業所内研修事例検討を行っている。隔月1回法人リーダー研修、新任研修を行っている 外部への研修にも参加した		

適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		今年度、新たに改訂された個別支援プログラムは作成し保護者への説明はおこなっている。公表はこれから行う	2025年3月に公表する
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		子どもの状をよく観て、保護者と連携し丁寧にアセスメントを行い、職員間で話し合いながら、年に2回個別の支援計画を作成している	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		事業所会議や、必要に応じてミニミーティングを実施し、子どもの支援に共通理解を持ち検討している	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		放課後等デイサービス計画は、共有し実施している	
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		保護者から提供されたアセスメントは支援の参考にしているが、標準化されたものではなく、本人、家族の思いに寄り添った支援をするために、個別支援計画やサポートカードを充実させ活用している	
	16	放課後等デイサービスには、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		子どもの状態をよく観て、保護者と連携し、丁寧にアセスメントを行い、職員間で話し合いながら、具体的な支援内容を作成している	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		活動担当者の立案をもとに意見をかわしながらチームで行っている	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		ダンス、ゲーム、制作、クッキング、外出、子どもたちのリクエストに応じるなどニーズに合わせ工夫している	
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		子どもたちの状況に応じて、個別に取り組む活動、集団であそぶ活動を行い、ごっこ遊びや興味のある活動を深められるよう計画している	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		共通のミーリングを使い、活動開始前に活動内容を確認している	

	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援のふり返しを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		その日の利用者の様子を記録し、振り返りを行い、気づいた点などを共有している	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		支援者全員で日々の子どもたちの支援に関して正しく記録し、所内会議、ミニミーティング等で検証している	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス個別の支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的に年に2回、モニタリングを実施し、振り返り、適切な見直しを行っている	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	○		基本活動を組み合わせ支援している	
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		子どもが自己選択できるように意識して、支援している	
関係機関や保護者と	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解者が参画しているか。	○		必ず責任者、管理者が参加している	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		必要に応じて行い、情報共有をしている	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか。	○		送迎時や、電話など情報共有や連絡調整などを行っている	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		必要に応じて行い、情報共有をしている	
	30	中学生対象の放課後等デイサービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供しているか。	○		卒業後、継続してサービスを利用する場合、移行先の責任者へ会議などで情報提供している	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要時に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		隔月1回、OTからスーパービジョンを受けているが、専門機関との連携はできていないので、必要に応じて行う	専門機関との連携がとれれば、助言や研修を受けたい

の 連 携	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	○	児童会との交流はないが、公園・体育館・図書館等の地域に積極的に出かけ地域の方や子どもと出会い、交流する機会を意識して作るようにしている。また、放課後等デイ開所日ではないが、毎月1回ずつ「あそび場」の企画をし、地域のこどもやおとなが出会える場を設けている	児童会とポラーノ広場の利用を併用している子どもの情報を共有し、支援を確認している。
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	○	隔月開催される呉市自立支援協議会に参加している	
	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○	メールや送迎時に保護者と話をして子どもの成長し合ったり、支援内容や様子について伝えている	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	保護者からのニーズは把握しておらず、ペアレントトレーニングは実施していない。研修の機会があれば参加する	保護者のニーズに応じて対応していきたい
保 護 者 へ の 説 明	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	契約時に重要事項説明書等で説明し、変更があればその都度書面と口頭で説明している	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○	年に2回(3月9月)の支援計画の作成・振り返りを行っている	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○	定期的に年に2回、モニタリングを実施し、振り返り、適切な見直しを行い保護者に説明し、同意を得ている	
	39	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	○	保護者の悩みには、速やかに対応し、話を聞く場を設けている	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援しているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○	家族行事を行った。5月BBQ大会、11月ピザパーティーを開催し、家族同士、きょうだいの交流する機会を設けた。保護者保護者に向けて茶話会も行っている	家族行事で、2月中旬、餅つき大会を予定している

等	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		職員間で共有し、改善策を考え速やかに適切に対応するように心がけている	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		毎月、法人が発行する会報や事業所通信で、行事や活動の様子をお知らせしている	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		同意を取り交わす等して、取り扱いには十分留意している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		個々に合わせ、わかりやすい伝え方をしている	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		年に9回あそび場として地域に開放している	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		年に2回、火災、地震（津波）を想定した避難訓練を実施し、消防士から災害と非難について話を聞いた。その様子は通信で保護者にお知らせしている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		法人が作成したBCPを元に訓練を行っている	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		家族や学校からの申し送りで、情報を共有し、確認できている	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		必要があれば対応する	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を作成している。必要な研修を行い、安全管理には気を付けている	
	51	子どもの安全確保に関して、家族との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		安全計画に基づく取り組みはしている 家族へ向けて、安全確保の連携が図れるようお知らせで来ている内容もあるが、すべての安全面の周知はできていない	保護者には、通信を発行し、安全計画について、周知していきたい

52	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか。	○		ヒヤリハットをその都度、法人内ミーリングで共有しファイリングし、会議で未然防止策について確認している	
53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止委員会を設置し、隔月で委員会を開催している 年に1回法人職員研修、年に1回事業所内研修を行い、毎月の業務点検でリスクについて確認している	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分説明し了解を得た上で、放課後とデイサービス計画に記載しているか。	○		現在、身体拘束を行なっているケースはない	今後、このようなケースがあれば、話し合いを重ね、十分に説明し了解を得て計画書に記載する流れを徹底する